



図7 スギノマシンサーボタイプのタッピングユニットシリーズ

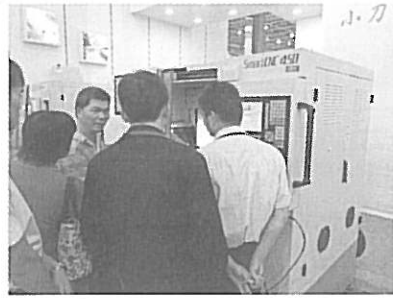


図8 北京精彫の小型マシニングセンタ

山田ドビーは高速精密プレス機 a 30 II および a 40 II の 2 台を出展。コストパフォーマンスを重視しながら品質・精度を日本製と同等に保持するため、重要部品は日本の材料で加工したものを輸入し、日本人技術者の指導の下、中国工場で生産している。

初出展の理研オブティックはプレス光線式安全装置や金型内で起こったトラブルを荷重として表示する荷重監視装置（図 6）など安全関連機器を出展。「中国では最近になってようやく安全を意識するようになってきた。高精度・高速化を目指す中国では今後ますます安全装置などの諸製品が普及する」と市場の期待感が大きい（海外部小川賢一）。

スギノマシンは加工時間の短縮を図るために最適な、サーボタイプのタッピングユニットシリーズ、中国、アジア、欧州向けの synchro tappare™ revo（図 7）を出展。「DMP の今年の感触としてはジャブからストレートに変わってきた」（速技能機械製造（常熟）の北野昭造高級技術指導）と商談での確かな手ごたえを感じていた。

### 高級材料で低価格材料を

日立金属は高温強度が高く、耐ヒートクラック性に優れるダイカスト金型用鋼 DAC-MAGIC® を中心に金型材料を紹介。中国では日本の材料メーカーの知名度がまだ低く、特にダイキャストでは欧州勢に後れを取っているため、中国での実績を拡大させ攻勢をかけていく。中国では年々金型のレベルが上がってきており、「SKD II クラスだと中国・韓国でも良い製品が生まれている。トータルとしては日本や欧州メーカーが上だが、うかう

かしているとキャッチアップされる」（日立金属（東莞）特殊鋼安保直人営業部長）と危機感を肌で感じている。

大同特殊製鋼は高韌性・高焼入性汎用熱間ダイス鋼 DHA-WORLD、高韌性鋼のダイキャスト用鋼 DHA を紹介。「中国でもコストダウンのニーズに応えるために、高級材料でかつ安い材料を提供しなくては競争に負けてしまう。ローカル材との価格競争に巻き込まれないような分野での勝負が必要」（大同特殊鋼（上海）工具鋼営業部瓜田龍実高級経理）としている。

また両社ともダイキャストのセミナーを実施し、昨年に比べて参加者が激増していたこともあり、高精度・高級志向が強まっていることを実感している。

### 力をつけてきた台湾・中国の機械メーカー

一方、海外勢では台湾の工作機械メーカー大手の永進機械が金型用立形マシニングセンタなど 6 台を出展。「高精度機械の要望が増えてきている。この展示会で新規ユーザーの開拓につなげたい」（永進機械彭少復営業主任）と満面の笑みでこたえる。

中国の工作機械メーカーの北京精彫は自社開発の数値制御（NC）装置を採用した小型マシニングセンタ（図 8）など 4 台を披露。携帯電話向け金型などの精密加工分野で実績があり、「東莞地区の年間売上高は前年比 30% 増の勢いで推移している。中国の高精度機械も実力をつけており、日本の工作機械メーカーと勝負したい」（北京精彫東莞支社劉雪末経理）と力を込める。